

# “No, it’s not.”と“No, it isn’t.”

佐藤良子

## はじめに

中学校からこれまで受けてきた英語教育では、〈代名詞+be 動詞+not〉の短縮形である〈it isn’t 型〉と〈it’s not 型〉は同じ意味で扱われ、また、筆者自身もそういう感覚で使用してきた。しかし、授業課題として〈代名詞+be 動詞+not〉の2種類の短縮形の使用頻度を Corpus of Contemporary American English (COCA)で調べた結果、not を短縮する〈it isn’t 型〉の頻度よりも be 動詞を短縮する〈it’s not 型〉の頻度の方が圧倒的に高いことが判明した(表1)。ここまで頻度に差があらわれるということは、英語話者たちの中では、この2つの表現に異なる点があるのではないだろうか。

本研究は、表1で最も頻度の高かった *it’s not* と *it isn’t* の例文を質的に分析し、英語話者の使い分けのパターンを見つけることを目的とする。本稿では、COCA の SPOKEN セクションの例文に着目し、課題に取り組んだ際に興味を持った *No, it’s not.* と *No, it isn’t.* の使用パターンを分類し、2つ表現の違いを考察する。

表1 〈it's not 型〉と〈it isn't 型〉の頻度

形	Frequency			形	Frequency		
	ALL	SPOKEN	per mil		ALL	SPOKEN	per mil
I'm not	59799	25416	265.95	I amn't*	-	-	-
you're not	22811	9530	99.72	you aren't	2041	183	1.91
he's not	15079	6808	71.24	he isn't	2384	345	3.61
she's not	5962	2267	23.72	she isn't	1214	113	1.18
it's not	74774	34113	356.96	it isn't	9473	2385	24.96
we're not	18768	10147	106.18	we aren't	1313	259	2.71
they're not	17042	10133	106.03	they aren't	3203	587	6.14

Corpus of Contemporary American English (COCA)

## 1 使用頻度

中学や高校で使用した教科書や参考書では、〈it isn't 型〉の *No, it isn't* が主な短縮形として扱われ、〈it's not 型〉の *No, it's not* よりも目にすることが多かった。ところが、COCA を使用して *No, it's not* と *No, it isn't* の頻度を確認したところ、表2のような結果が出た。〈代名詞+be 動詞+not〉の短縮形と同様、*No, it's not* の方が *No, it isn't* よりも頻度が高く、およそ6.7倍の差が見られた。頻度にここまで大きな差があるということは、*No, it's not* の方が頻繁に使用される理由があるはずである。

表2 *No, it's not* と *No, it isn't* の使用頻度

	ALL	SPOKEN	
	Frequency	Frequency	per mil
<i>No, it's not</i>	362	275	2.88
<i>No, it isn't</i>	86	41	0.43

Corpus of Contemporary American English (COCA)

## 2 be 動詞の否定文の短縮形

### 2.1 先行研究

頻度が大差が生じる原因を探るため、辞典や書籍を含む複数の先行研究から、be 動詞の否定文の短縮形について、どのように説明されているのかを調べた。その多くで〈it isn’t 型〉は〈it’s not 型〉と同義であると述べられていたが、中には、強調の意味合いの強さに違いがあると述べられているものもあった。

#### 2.1.1 No, it’s not. = No, it isn’t.

高校生が使用している学習参考書『ブレイクスルー総合英語 (改訂二版)』では、平叙文でも疑問文の応答でも (1) や (2) のような〈it isn’t 型〉の例文のみが扱われ、〈it’s not 型〉は、*I’m not* 以外扱われていない。

- (1) Jim is not (/ **isn’t**) a college student.
- (2) Is she a popular singer in Japan? – Yes, she is. / No, she **isn’t**.
- (3) Isn’t Mr. Brown a math teacher? – Yes, he is. / No, he **isn’t**.

この参考書では、*I’m not afraid.* と *I’m afraid not.* の意味の違いのように似ている表現の違いをいくつもコラムで紹介しているが、*is not* と *isn’t* が同じであること以外は表記がない。明言はしていないが、中学校までの学習内容を踏まえると〈it isn’t 型〉の *No, it’s not.* と〈it’s not 型〉の *No, it isn’t.* は同じであると解釈できる。

Murphy (2011) は、be 動詞の疑問文に対する否定のショートアンサーには、〈it isn’t 型〉と〈it’s not 型〉の2つあり、その意味は同じであると述べている。特に補足もないので、*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* に違いはないと解釈できる。

- (4) “That’s my seat.” – “**No, it isn’t.**”

Leech (1998) は、「形式ばらない」英語では、〈it isn't 型〉の *No, it's not.* と 〈it's not 型〉のどちらの種類短縮形も用いられ、(5) のように、長い名詞が主語である場合は、〈it isn't 型〉の方がよく用いられると述べている。ただし、今回は主語が *it* と短いので、この使い分けとは考えにくい。

(5) The children *aren't* in school today.

*No, it's not.* = *No, it isn't.* とする先行研究では、〈代名詞+be 動詞+not〉の短縮形は〈it isn't 型〉と〈it's not 型〉の2つあり、同じ意味で用いられるとされている。

2.1.2 *No, it's not.* ≡ *No, it isn't.*

Biber, Johansson, Leech, Conrad and Finegan (1999) は、〈it isn't 型〉<sup>1</sup>は、*can't*, *haven't* のように、be 動詞以外での短縮形として一般的に使用され、大部分が文頭で用いられる（文末での使用は 5%以下）と述べている。また、固有名詞が主語の場合は、Not-Contraction 〈it isn't 型〉の頻度が高いことも示している。さらに、〈it's not 型〉<sup>2</sup>は、一般的に現在形で用いられ、人称代名詞と共起して〈it isn't 型〉よりも文末に来ることが多く、その場合は強調の意味合いを持つと述べている。

小西 (1999) もこれと同様の見解を示しており、「*it isn't* の方が普通の否定形で、*it's not* はその強調形とも言うべき言い方。きっぱり否定を明言したい場合に好まれる」としている。〈it's not 型〉の方が強意的な言い方であることは、岸野 (2008) にも述べられている。

このように、「強調の度合い」が〈it's not 型〉 $\geq$ 〈it isn't 型〉と、*No, it's not.* の方がより強い意味合いで使われるため、*No, it's not.* ≡ *No, it isn't.* と主張されていることがわかる。

ちなみに、小西は、「*it isn't* の方が普通の否定形」と述べているが、COCA の頻度から算出すると、*No, it's not.* の方が実際に疑問文の応答として使用されている割合が高いので、「普通の否定形」と断言して良いものかは疑問が残

<sup>1</sup> 〈it isn't 型〉は Not-Contraction という言葉で説明されている。

<sup>2</sup> 〈it's not 型〉は Operator Contraction、という言葉で説明されている。

る (表 3)。

表 3 疑問文に対する応答における *No, it’s not.* と *No, it isn’t.* 使用の割合

	%
No, it’s not.	88.6
No, it isn’t.	11.3

### 2.1.3 疑問文の傾き (肯定／否定バイアス)

*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* は、主に疑問文に対する応答として使用されるため、ここで、疑問文について触れておく。特に、今回の分類に影響を与える疑問文の傾きに関する、先行研究を 2 つ挙げる。

疑問文には、肯定にも否定にも傾いていない中立な立場で尋ねているもの (以下、中立な疑問文) と、話者が相手の答えを **Yes** または **No** であることを予測・期待している傾きのある (バイアスのかかった) 疑問文がある。

Carter and McCarthy (2006) によると、平叙疑問文は、イントネーションによって、意味合いが異なる。(6)、(7) は同じ文だが、上昇調で尋ねる (6) は事実を確認するための質問で、下降調で尋ねる (7) は疑いの気持ちを表す。

- (6) A: I’ve got her number.  
B: You’ve got her number? ↗ (確認、肯定の傾き)  
A: Yeah.
- (7) A: I’ve got her number.  
B: You’ve got her number? ↘ (疑い、否定の傾き)  
A: Yeah.

また、上昇調は不確かさを表すので、確信のない **Yes / No** 疑問文、つまり、中立な疑問文に適している (柏野、2010)。さらに、Huddleston and Pullum (2005) は、肯定の平叙疑問文は肯定の傾きが、否定の平叙疑問文には否定の傾きがあると主張している。

- (8) They’ve finished? (肯定の傾き)

## (9) They haven't finished? (否定の傾き)

(8) は、終わっていると予測し、Yes の答えを期待している。(9) は、終わっていないと予測し、No の答えを期待している。このように、平叙疑問文には、肯定または否定の傾きがある。ただ、Carter and McCarthy が指摘するように、肯定の疑問文の場合、イントネーションによって意味合いが異なる場合もあるため、文字だけでなく、音声も聞いた方がより正確に傾きを判断することができるだろう。

続いて、付加疑問文の傾きについて整理する。付加疑問文には強い傾きがあり、聞き手の期待や願望による肯定もしくは否定のバイアスがかかっている。そのバイアスは、表 4 のように、付加疑問文のタイプによって異なる (Huddleston and Pullum, 2005 ; Carter and McCarthy, 2006)。

表 4 付加疑問文のタイプ

タイプ	↘	↗ または ↘	聞き手の制限/期待
①肯定+否定	They've been affected by it,	haven't they? ↘	同意の yes (Yes, they have.)
②肯定+肯定	He's gone back,	has he? ↗	同意の yes (Yes, he has.)
③否定+肯定	She never talked to anybody,	did she? ↘	同意の no (No, she didn't.)
④肯定+否定	You've worked hard,	haven't you? ↗	yes / no も可 (Yes, I have.)
⑤否定+肯定	He didn't get it,	did he? ↗	no / yes も可 (No, he didn't.)

Carter and McCarthy (2006), p. 725 項目番号 431 “Types of tag question” 参照

タイプ③および⑤は、聞き手が *No, she didn't.* を求めるタイプである。③は、主節の内容を確認するもので、No の答えを期待している。⑤のバイアスは③ほど強くはない。文末が下降調に発話された場合は確認の意味合いが強く、聞き手は No の答えを予測している。他方、文末が上昇調に発話された場合

は中立で、聞き手は **No** の答えが望みつつも、**Yes** の答えがくる可能性も予測している。

以上のように、平叙疑問文や付加疑問文は聞き手の期待や願望によって肯定または否定に傾いている場合が多い。そして、質問に対する返答は、これらの傾きに影響されると考えられる。この点については、例文分析で詳しく説明する。

## 2.2 Native Speakers の感覚

先行研究とは別に、英語話者が *No, it’s not.* と *No, it isn’t.* に違いがあると感じているのか、使い分けしている感覚はあるのか、大学や語学学校で英語指導に携わっている英語母語話者 5 名 (アメリカ出身 1 名、イギリス出身 1 名、カナダ出身 3 名) に尋ねてみた。すると、全員「特に違いはない」と回答した。使い分けしている感覚も特にないとのことだった。イギリス出身の 1 名だけは、強いて言うならば、*not* を強調したい時は *No, it’s not.* を使うことが多い感覚があると話した。

## 3 例文分析

分析は、使用頻度を調べたコーパス COCA の例文を用いて行なった。*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* の例文を状況・内容・前後の文法・語彙などから判断し、下記のパターンに分類した。*No, it’s not.* には 3 つ、*No, it isn’t.* には 2 つのパターンがあると考えられる。

表 5 *No, it’s not.* と *No, it isn’t.* の使い分けパターンの分類

<b>No, it’s not.</b>	(1) 否定意思の強調 (2) 中立な (肯定／否定のバイアスがない) 疑問文に対する応答 (3) 言い直し・訂正
<b>No, it isn’t.</b>	(4) 否定バイアスのかかった疑問文に対する同意 (5) 否定意思への同調

これらの詳細を COCA の例文を元に説明していく。

### 3.1 No, it's not.

#### 3.1.1 否定意思の強調

まず、文献でも述べられていたように、*No, it's not.* は否定を強調するために使用される。以下の例 (10) と (11) は、相手が自分と真逆の意見を主張していることに対して否定の意思を強調している。

- (10) Mr. DEUTSCH : You guys, you're missing the whole -- no, no, this is not a man / woman. You look at any lingerie ad for anything that has to do with anything looking sexy, perfume, the woman is brooding also. That's what we are trained is sexy, is mysterious.
- Ms. JONES : That's because they're skinny models and they're hungry.
- Mr. DEUTSCH : *No, it's not.* It's not man / woman issue.
- Ms. JONES : I'm thinking that.

NBC\_Today (110922)

- (11) BECKEL : Here is the problem that you've got. You say you should tack right. It's tough to tack right when you're not right, number one.
- BOLLING : *No, it's not.*
- BECKEL : Yes, it is!
- BOLLING : (CROSSTALK) Newt tried it with immigration.

NBC\_Today (110922)

次の例 (12) と(13) は、*No, it's not.*と答えた上で、続けて同じ表現を繰り返すことによって、更に否定の意思を強調している。

- (12) BOIES : If you did -- if you did it just on precedence, you

“No, it’s not.”と”No, it isn’t.” (佐藤良子)

wouldn’t have the current majority of the Supreme Court overruling past decisions.

- SEKULOW : Of course they do.  
BOIES : That’s policy.  
SEKULOW : **No, it’s not. No, it’s not.** It’s a..  
BOIES : What is it then?  
SEKULOW : It’s a constitutional analysis.

Fox\_Hannity (090713)

- (13) O’BRIEN : Do you know how to kill someone with a chokehold?  
That’s a yes-or-no answer.  
WILLIAMS : **No, it’s not. No, it’s not.**  
O’BRIEN : Yes, it is actually.  
WILLIAMS : **No, it’s not. No, it’s not.** It’s a..

CNN\_NEWS (110115)

このように、繰り返しを用いて強調している頻度は、*No, it’s not.*の方が*No, it isn’t.*よりも高かった。

また、例 (14) や (15) のように、繰り返しではなく副詞を用いたり、一部の語彙を入れ替えた否定文を続けたりすることで、より否定の意思を強調するものも見られた。

- (14) PELLY : Are we moving in the direction of reading people’s thoughts?  
Dr. WOLPAW : Yeah, not..  
PELLY : Are we -- is this mind control around the corner?  
Dr. WOLPAW : **No, *it’s not.* It’s certainly not mind control.** and it’s different from reading people’s thoughts, and it’s important to realize that this requires the cooperation of the person.

CBS\_Sixty (081102)

- (15) Mr. HARRIS : That’s that comment that I can talk about my mama but you can’t right?  
COX : Yeah, yeah, yeah.

Mr. : ***No, it's not.*** It's absolutely not.  
HARRIS : And even though I don't agree with...

NPR\_NewsNotes (070416)

直前の **terrible** や **fault** など、語彙にネガティブな意味がある語が示す内容を否定するために *No, it's not.* が用いられている場合もある。これらも、否定することを明示するために *not* を強調していると考えられる。

(16) SPRINGER : OK. What do you want to s -- this is your chance.  
You saw them on the show -- what do you want to say to them?

PEYTYN : Cheena, why? That's terrible.

CHEENA : ***No, it's not.*** It's not terrible. It's what I choose to do. I support my family that way. And...

Mr. WILBORNE : What is your son going to say when he go to school -- Hey, what does your momma do?

Ind\_Springer (19970728)

(17) Mr. EDGAR : What does she keep doing, she keeps messaging me and trying to get an older guy to come over here.

HANSEN : So, it's her fault?

Mr. EDGAR : ***No, it's not.***

HANSEN : Blame the victim.

NBC\_Dateline (070206)

ただ、このパターンに関しては、ネガティブな内容を否定するために、文末焦点が働いて否定を強調している可能性もあるため、さらに例文を分析していく必要がある。

以上の例のように、*No, it's not.* は、否定の意思を強調する際に用いられる。単独で使用するだけでなく、*No, it's not.* を繰り返したり、一部の

語彙を入れ替えた否定文を続けたりして、否定の意思を強調する場合もある。

### 3.1.2 中立な（肯定/否定のバイアスのない）疑問文に対する応答

Yes / No 疑問文に注目してみると、*No, it’s not.* という応答は、肯定や否定に傾いていない疑問文に対して使う傾向がある。ここで、*No, it isn’t.*ではなく *No, it’s not.* が頻繁に用いられるのは、尋ねてきた相手が Yes なのか No なのかを答えとして求めているので、それを明示するために文末焦点の原則が働いているからだと考えられる。このような場合は、例 (18) や (19) のように、あとに補足説明が続く傾向が見られる。

- (18) PHILLIPS : ...Service has launched a criminal investigation into possible fraud.  
WALTERS : Is it unique to Stanford?  
PHILLIPS : **No, it’s not.** A lot of universities are going to big bucks and other universities will be investigated, including...

ABC\_2020 (910315)

- (19) MORRISON : (Voiceover) The judge gave Michiel Oakes the maximum sentence, 26 1/2 years in prison. But even as he was led away, there was so many questions still unanswered, for now. (Oakes-in-handcuffs) Is the investigation into the murder of Mark Stover complete? Is the case closed?  
Det. LUVERA : **No, it’s not.** It’s always going to be a continuing investigation.

Dateline\_NBC (110121)

### 3.1.3 言い直し・訂正

話者が自ら内容を言い直したり訂正したりする際は、*No, it's not.* が使われる傾向がある。ただし、単独で用いるのではなく、直前に、“oh,” が入ったり言いよどんだりする。

- (20) Mr. STEWART : Oprah, welcome to my Californian house. Please come in. I don't often do this for people. This is the kitchen—oh, ***no, it's not.*** This is the hallway and these are all Victorian paintings I've collected over the last 30 years.

Ind\_ Oprah (031209)

- (21) Mr. GOLDBERG : Yeah, but see, the thing is that that's exact -- I knew this was going to happen. And everybody says, Oh, you're being so cynical. Oh, ***no, it's not.*** Oh, no, this is going to be different. And I either have a sixth sense about these things or I am fact in a curse. I'm not sure which.

NPR\_FreshAir (051027)

この場合は、訂正した内容を明示するために *not* を強調している「否定意思の強調」である可能性もあるので、さらに詳しく例文を分析する必要がある。

## 3.2 No, it isn't.

### 3.2.1 否定バイアスのかかった疑問文に対する同意

質問者があらかじめ、相手に *No* の返事を期待していたり予測していたりする時は、*No, it isn't.* と答える傾向が強い。*No, it's not.* に否定を強調する働きがあるとすると、お互いに否定的な考えや意思を持っていることが分かっているので、*not* を強調する必要がないためだと考えられる。

- (22) CHUNG : Roger's life has obviously changed a great deal since his brother became president. How do you think he's handling the limelight, which is not easy?
- Mrs.-KELLEY : **No, it isn't.** And I was really concerned about this.
- CHUNG : You were afraid that he might...
- Mrs.-KELLEY : He might start drinking too much.
- CBS\_EyeToEye (930617)
- (23) BONIOR : That's not personal. It's taking on the Republican Party and their policies. And, you know, Bush and Cheney are oil folks and, I mean, I think that's a fair thing to go after.
- NOVAK : That's not personal?
- BONIOR : **No, it isn't.** It's not personal at all. They represent the oil industry, they represent the HMO industry, they represent the insurance industry in this country.
- CNN\_Novak (000813)

先行研究でも述べたように、付加疑問文には強い傾きがある。(24)のように、否定+肯定タイプは、聞き手が No の返答を期待した否定のバイアスがかかっている。そのため、話者は *not* を強調する必要がなく、*No, it isn't.* を使用する。

- (24) KOPPEL : Close to 70, 65 to 70 percent of the American public voted for change. Unfortunately for the Clinton people, 25 percent of that went- or 20 percent of it went to Ross Perot. But obviously the American public was looking for change. That's not easily arrived at, is it?
- Mr. AILES : **No, it isn't.** Actually, the change that he promised them is not what he's delivering them, and that is the problem with Bill Clinton.
- ABC\_Nightline (930510)

## 3.2.2 否定への同調

相手の否定的な意見に同調する場合は、*No, it isn't*. が用いられる傾向がある。このような状況では、話し手と聞き手が同じ考えを共有しているため、両者の間に否定のバイアスがかかっており、*not* を強調する必要がないからだと考えられる。

- (25) PHILLIPS : Holding that child and then having to let it go?  
 Ms. : Nope. I try not to think about it too much. Nope.  
 CARMELLA  
 PHILLIPS : A lot of unknowns. Uncertainty. It's not going to be easy.  
 Ms. : ***No, it isn't.*** You OK, honey?  
 CARMELLA

NBC\_Dateline (030822)

以上の例文分析から、*No, it's not.* と *No, it isn't.* の使い分けには、文末焦点の原則と否定バイアス（否定への傾き）が関係していることが明らかになった。否定の強調や明示のために文末焦点の原則が働いている状況では *No, it's not.* を使用し、会話に否定の傾きがある状況では *No, it isn't.* を使用する傾向が強い。

## 4 英語教科書での扱い

ここで、学校教育で用いられている教科書<sup>3</sup>の本文での *No, it's not.* と *No, it isn't.* の扱いについて述べる。教科書において、応答表現として *No, it isn't.* を中心に用いられている。例文分析の結果を踏まえると、その状況設定は否定に傾いているべきである。しかし、多くの場合、肯定/否定バイアスのない中立な疑問文で使用されている（表5）。英語話者の使い分けの傾向を考えると、不自然な印象が残る。その中で、*New Horizon* (NH) の1年生の教科書では、

<sup>3</sup> *Columbus 21* (CB), *New Crown English series* (NC), *New Horizon English Course* (NH), *One World* (OW), *Total English* (TE), *Sunshine English Course* (SS)

一貫して *No, it’s not.* を用いている。その理由を東京書籍ウェブサイトの「よくある質問」次のように説明している。

会話体では〈it’s not〉型が70%、〈it isn’t〉型が20%

短縮形はやっかいな問題ですが、オーラルコミュニケーションを重視する上で、1年生の最初から避けては通れない問題です。NEW HORIZON では、〈it’s not〉型が〈it isn’t〉型よりも英語の口語の実態としてより使用頻度が高いこと、そしてまた日本人の初心者にも指導しやすい利点があることなどを判断の根拠に、1年では〈it’s not〉型のみを使用し、2年以降で必要に応じて〈it isn’t〉型も取り扱うようにしています。

(以下、省略)

NH では、英語話者の使用頻度に基づいて教科書の本文を扱っていることがうかがえる。否定を明示・強調する必要がある状況での会話が構成されており、*No, it’s not.* を適切に使用していると言える。

## 5 考察

一般的に、*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* との間には意味論的にも語用論的にも「違いはない」と言われている。英語母語話者自身も特に使い分けている感覚がないようである。中には、*not* を強調する時には *No, it’s not.* を使っているという者もいるが、大部分は「同じだ」と言う。しかし、例文を分析してみると、2つの間には無意識的な使い分けが存在していることがわかる。文末焦点の原則や話者の否定や肯定への「傾き」が関係している。

今回確認した頻度はCOCAのSPOKENセクションに限定した分析だった。この分類をより信頼できるものにするためには、まず他のセクションの例文やコーパスでの頻度を調べる必要がある。また、例文分析に関しては、活字だけでの分析となったため、話者のイントネーションや表情を踏まえた分析ができていない。その点も踏まえ、映画やテレビ番組の例を見ていき、話者たちの「傾き」との関係に注目していく。

表 6 各教科書での Yes / No 疑問文への応答

教科書	学年	ページ	質問	応答
CB	1	38	Is this your bag?	Yes, it is. / <i>No, it isn't.</i>
NC	2	95	Is it Hashire Merosu?	Yes, it is. / <i>No, it is not [isn't].</i>
NC	1	24	Is that a fox?	Yes, it is. / <i>No, it is not [isn't].</i>
NC	2	94	Is the car washed every day?	Yes, it is. / <i>No, it is not [isn't].</i>
NH	1	22	Is that a fish market?	<b><i>No, it's not.</i></b> It's a restaurant.
NH	1	39	Is it easy?	Yes, it is. / <b><i>No, it's not.</i></b>
OW	1	27	Is that your racket?	<i>No, it isn't.</i> That's Bob's.
OW	1	31	Is it a cat?	<i>No, it isn't.</i>
SS	1	50	Is that your bag?	Yes, it is. / <i>No, it isn't.</i>
SS	1	113	Is that your bag?	Yes, it is. / <i>No, it isn't.</i>
SS	1	50	Is this your pencil?	Yes, it is. / <i>No, it isn't.</i>
SS	1	50	Is that your pencil, Ken?	Yes, it is. / <i>No, it isn't.</i>
TE	1	50	Is that a balloon?	<i>No, it isn't.</i> It's a Japanese lantern.
TE	3	12	Is English spoken in that country?	Yes, it is. / <i>No, it isn't.</i>

## 6 結論

本稿では、COCA の SPOKEN セクションの例文に着目し、*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* の使い分けについて分析した。その結果、文末焦点の原則や話者の否定や肯定への「傾き」が関係していることがわかった。*No, it’s not.* は否定意思の強調、肯定/否定バイアスのない中立な疑問文への応答、言い直しや訂正など、*not* を強調する際に用いられる傾向が強く、文末焦点の原則が働いている。*No, it isn’t.* は、否定バイアスのかかった疑問文に対する応答や否定への同調など、話者間で否定のバイアスを共有し、*not* を強調する必要がない場合に用いられる傾向が強い。したがって、*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* には英語母語話者が無意識レベルでの意味合いの違いが存在している。2 つの使用頻度の差は、*not* を明示・強調する必要がある状況に比べ、否定に傾いた情報を共有する状況が少ないために生じていると予測できる。今回は、これらの状況が発生する割合を調査することはできなかったが、*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* の使い分けについて、他のコーパスや他のセクションを分析することで明らかにできればと考えている。そして、将来的には、*No, it’s not.* と *No, it isn’t.* だけではなく、研究の動機となった COCA の *it’s not* (34413 例) と *it isn’t* (2385 例) を分析し、頻度に大きな差があらわれる要因、英語話者たちの感覚的な表現の違いを解明していきたい。

## 謝 辞

本稿の執筆にあたり、様々なご指導を頂きました本学の渡邊信教授に心より感謝いたします。

## 参考文献

- Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., & Finegan, E. (1999). *Longman grammar of spoken and written English* (3rd ed., pp. 165-169). Essex: Longman.
- Carter, R., & McCarthy, M. (2006). *Cambridge grammar of English* (pp. 98b, 435a,

- 430-431). Cambridge University Press.
- Davies, M. (1999-2012). *Corpus of Contemporary American English*. Retrieved from <http://corpus.byu.edu/coca/>
- Huddleston, R., Pullum, K. J. (2005). *The Cambridge Grammar of the English Language* (3rd ed., pp. 878-895). Cambridge: Cambridge University Press.
- Leech, G., Svartvik, J. (1998). 『現代英語文法〈コミュニケーション編〉新版』 (pp. 398-399) 紀伊國屋書店.
- Murphy, R, Smalzer, R. W. (2011). 『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)新訂版』 (pp. 4-5, 82-83) Cambridge University Press.
- Swan, M. (2005). *Practical English Usage* (3rd ed., pp. 120-121, 344-346). Oxford University Press.
- 笠島準一・関典明 (2012). *NEW HORIZON English Course*. 東京書籍.
- 柏野健次 (2010). 『英語語法リファレンス』 (pp. 322-323, 443-444) 三省堂
- 小西友七 (1999). 「Question Box 35」. 『英語教育』 48 (8), 69-76.
- 岸野英治 (2008). 総合コミュニケーション英語. 大修館書店.
- 矢田裕士・吉田研作 (2012). *TOTAL ENGLISH*. 学校図書.
- 高橋貞雄 (2012). *NEW CROWN English Series*. 三省堂.
- 東京書籍 (2013). 「教科書・図書教材よくある質問 Q&A: 英語: 中学校『NEW HORIZON』」参照先:  
<http://www.tokyo-shoseki.co.jp/question/j/eigo.html#q13>
- 東後勝明 (2012). *COLUMBUS 21*. 光村図書.
- 松畑熙一・佐野正之 (2012). *Sunshine English Course*. 開隆堂出版.
- 松本茂 (2012). *ONE WORLD*. 教育出版.
- 吉波和彦・北村博一・上野隆男・本郷泰弘 (2014). 『ブレイクスルー総合英語〈改訂二版〉』 (pp. 34-40) 美誠社